

炊き出しボランティア通信 vol 50

2011,7月

炊きだし 7月9日(土)晴 12:00 ~ 五橋公園

あつい一日でした。公園に集まった方は51人(女性4人)でした。被災で石巻から流れてきてのホームレスの方もあり。ボランティア参加の生徒は今回から新入生が登場しました。ことばがたない分だけまた、一生懸命でした。



○初めての炊き出しボランティアがすごく暑くて大変だったけど、ホームレスの人たちが喜んでくれたよかったです。反省会でWさんから、宮城県はホームレスの人に対してすごくいい対応をしているということを知りました。次回は公園に苦手な鳩がいても騒がないようにします。そしてもっと笑顔でいたいです。

○分からないことだらけで、ボランティアのおばさんたちにたくさん迷惑をかけてしまいました。でも、ホームレスの人達がとても喜んでいたのでよかったです。



○初めてでいろいろ分からないところもありましたが、Wさんたちがやさしく教えてくれて助かりました。とてもいい勉強になりました。次回も頑張りたいです。



○準備から始まり、時間をかけて料理を作ったりして、とても体力のいる仕事ばかりで大変でしたが、やりがいがありました。また今回はスタッフの人数も少なく大変でしたが、最後までやりきることができたので良かったです。次回は今回よりもすばやく行動したいです。



夜回り 7月6日(水) 8:30~10:00 曇り

この日も夜回り道具に懐中電灯が入っていない。国際センター向かいに駐車してから気づいた。教会を出発するとき確認しなかったことを後悔した。真っ暗な中を所々歩くことになった。今夜は(幸い?)1人である。国際センターの裏手ベンチは建物から漏れた明かりで何とか足下が見えた。表ベンチまではやや厳しかった。そこにいるおじさんも後でまわるKuさんも味噌スープをつくって差し上げるとき、皆真っ暗な中でも真っ黒と分かる手でニコニコしながら受け取るのが分かる。季節がら臭いなあと思いながらも、暗くて見えないことよりも、臭くて黒い手よりも、こちらの心がなんだか温かくなった。大橋下のKuさんはご自分の宝の山(ゴミ山)の真ん中でパンパンと手を打っていた。「Kuさん」と呼ぶと、黒い影が一瞬ピクンと跳ね上がった。それにつられてこちらも一緒にのけぞった。おむすび・ゆで卵・カップ麺・蚊取り線香をわたしながらの会話。「きょうはいちだんと蚊がすごくてねえ」そうでしょうねえ。「先生のとこのおむすびが一番おいしいです。」(いつの間にか先生呼ばわりされ、しかもおせじま

で言われた。Kuさんなりに精一杯の儀礼かな)この荷物の山は全部Kuさんが?「ハイ。撤去しろと(市の係員がきて)うるさく言われます。」業者に売るんですか?「ハイ。タバコ代ぐらいにはなります。」

西公園の石ベンチおじいさんはおやすみ中だったが、すぐに起きた。—おじいさんのお名前なんでしたっけ?「HSです。」恥ずかしそうに小声で答えた。どこでも聞いたことのある名前なので、思わずふきだしそうになった。確かこのおじいさんは、先月はSkとっていた。—この大木だと雨の時あまり濡れないですか?「いえ、ずぶ濡れです。」またふきだしそうになった。

陸橋下のOさんは、近くの寮生が夜中に『わが家』へ大きい石を投げつけていった。あいつら慌てて逃げてゆくとき一人財布を落としていった。3万円入っていた。交番に届けた。Oさんその話をしようと待っていたにちがいない。立て続けに3回ほど繰り返した。…困った。

献品 中高からお米をたくさん預かりました。ありがとうございました。

萌友の炊きだし 7月16日(土)晴 12:00 ~ 五橋公園

NPO法人『萌友』の炊き出しに、7月9日には模擬テストのために参加できなかった3年生の希望者と、参加しました。萌友と正平協は姉妹関係にあります。萌友の炊き出しは衣類提供がなく、もともと福祉プラザで食事提供を行っていたものです。3.11の影響でプラザは年内使えないとのこと。五橋公園に10時集合、その場で調理して食事を提供します。その現場に生徒も初めてゆきましたが、Hさんがあっちこっちと指示し手を動かし、なかなかせわしないものでした。しかし活気がありました。



○ 参加した3年生の振り返り ○

① 3年間の活動を通して高校生活で誇れるものが一つできた。最初の炊き出しではホームレスの人やお手伝いの方とコミュニケーションがとれず、ただ手を動かすだけになってしまった。だが現場を見て衝撃を受け考えが変わった。街中で見ていたホームレスの人を見ると抵抗感を覚えて近寄れなかったが、実際に会ってみるとやさしくて元気な人が多かったこと、その後何度か炊き出しに

行っているうちに顔も覚えてもらえ最初の頃より会話が弾み、「ありがとう」「また来てくれたんだね」と声をかけてもらえるようになり、本当にやってよかったと感じたこと。抵抗感をもっていた自分がとても恥ずかしくなり、また自分自身がきちんと3食食べて服も買えるなど裕福な生活を送っていたことにあらためて気づかされ生活を見直したこと等。

募金活動でも声を枯らして思いを伝えれば、幅広い年代の方に届き、多く支援してもらえることが分かった。最初私たちの世代の人たちはあまり入れてくれないだろうと思っていたが、その逆で周りのことも気にせず一人で入れてくれた人もいた。私たちの世代は周りを気にしてなかなか募金しないが、今の世相のために人の心が変わったのかなと思う。

炊き出しや募金活動、なかなか経験できないことなので、本当に所属してよかった。今こういう状況で苦しいときだが復興のために頑張ろうとしている。

誰かのために涙に立ちたいという思いは強くなったし、忘れないようにしたい。一生懸命働けば元気がもらえ笑顔が増えることが分かったので、そのことを教えてくれたまた関わった人々に感謝している。

② 今まで3年間ボランティアをしてきましたが、最初にしたホームレスの方々への炊き出しが一番印象に残っています。最初、私はホームレスの方に偏見がありました。そして初めてのことで、何をしたらよいのかが分からなく、戸惑うことが多かったのですが、他のボランティアの方々やホームレスの方々と接していくうちに、だんだんと仕事をできるようになったと思います。

炊き出しをして思ったことは、皆で作業をして協力をして作ったものを、ホームレスの方に配る時の嬉しさや、達成感です。一つのもので作り上げる喜びを学ぶことができたと思います。そして、自分から仕事を聞いて積極的に仕事をしなければいけないことは、これから社会に出る上で大切なことだと実感しました。

昨年の夏に仙台でおこなわれた障害者共働大会のボランティアでは、手伝いの人にも幅広い年代の方がいて、とてもいい出会いと発見がありました。私は来賓の方を案内する仕事でしたが、お連れした後に「ありがとう」という一言がとても嬉しくなりました。参加者にも障害をもっている人はたくさんいて、接することの難しさや、これからどう接してゆけばよいのかを学ぶことができました。

東日本大震災の募金は、被災地としてまだ傷が癒えていない中での活動だったと思います。街の人一人一人がこの大震災について考えている、そんな思いがとても伝わりました。小さい子どもからお年寄りまで色々な思いがある中、一円でも五円でも募金をしていただいて人の温かさを知りました。「頑張ってるね」そう言われることが多かった募金活動でした。そして募金活動をしている私たちも、いち早く復興してほしいという思いをこめて活動をしていました。この震災の悲惨さとこれからかかる大きな復興作業を改めて実感し、心が痛くなりました。

これからまだまだ大変ですが、今何ができるのかということボランティア同好会を通して学ぶこと、考えることができたと思います。



～3年生のふり返りに寄せて～

昨年度あたりから大人数を抱えた同好会になっています。顧問は他の部顧問を兼部しています。現在60数名の同好会員の部長も副部長も他の部や外での活動をやはり兼ねて行っています。活動は日常的に活発で忙しいわけではなくて、今年であれば①路上生活者自立支援炊き出しボランティアと②東日本大震災復興支援ボランティアを二本柱にして活動を展開しています。もともとは顧問の高橋が、自分のやりたいことに人を巻き込む癖から始まっております。毎月1回の炊き出しに大人数で行っては指導くださる大人の方達に負担をかけるのと他校の生徒も参加しに来ることもあることから5～8人のグループで当番制にして参加させています。ですから多くとも年に2～3回です。

3年間続けた3年生の振り返りに、心が拾われた思いであり、炊き出しに連れて行ってよかったのだと、成長する生徒の心に感謝するばかりです。参加する機会を一人でも多くの生徒にもってもらいたいために、同好会が存在するのかなと思っております。

（顧問 高橋 覚）

ボランティア参加希望や献品がありましたらよろしくお願いします。